R7 年度 荒川区「学力向上を図るための調査」

荒川区立第九峡田小学校 算数科の調査結果の概要

学年	1年	2年	3年
九峡	78.6 (−1.5)	90.5 (+3.8)	75.1 (−1.9)
荒川区	80.5	86.7	76.8
全国	78.6	85.4	75.6
学年	4年	5年	6年
九峡	73.0 (−1.3)	56.8 (−12.9)	59.4 (−4.9)
荒川区	74.3	69.7	64.3
全国	72.4	67.9	60.9

※　表内の数値は「%」です。

イ　各教科

【低学年】

＜１年＞

☆区平均を 1.5 ポイント下回った。
(傾向)
〇学習指導要領すべての内容において、区平均を下回った。

校内の平均正答率が高かった設問

【たしざん】校内 100%、全国 95.9%
・１けた＋１けた＝１けたの計算ができる。
【たしざん】校内 97.4%、全国 94.2%
・１けた＋１けた＝十何の計算ができる。
【ながさ・かさ】校内 94.9%、全国 942.1%
・文房具の長さの目盛りのいくつ分かで比較できる。

校内の平均正答率が低かった設問

【たしざん】校内 17.9%、全国 24.3%
・示された加法の式と日記から、必要な要素を選び、適切な文章問題をつくっている。

【ひきざん】校内 51.3%、全国 58.0%
・文章問題(求補の場面)を解くために立式した十何－１けた＝十何の式から、正しい答えを求めることができる。

【なんじ・なんぷん】校内 59.0%、全国 67.3%
・示された時刻の時計を選ぶことができる。

改善プラン

・たし算・ひき算の計算問題では十進位取法数法の考えを基にする計算の練習し、基礎基本を高める。
・ひき算の学習では、正しい答えを導くために絵や図・ブロックを使ってひき算のイメージをもたせる。
・イラストから自分で作問する問題では、スモールステップで、式にあう文章を選ぶ段階を取り入れる。式を選ぶことができるようになったら、主語・述語・数量に着目して問題場面をイメージする力を育てる。
・何時何分では、時間と分の関係や短針と長針の位置など学校生活の日常から実際の時刻を読んだり、表したりして時刻を正しく読む力を育む。

つながりのある２年生の単元

・たし算のひっ算
・ひき算のひっ算
・時こくと時間

＜２年＞

☆区平均を 3.8 ポイント上回った。
(傾向)
〇学習指導要領のすべての内容において、区平均と同じもしくは区平均より上回った。

校内の平均正答率が高かった設問

【120 までの数】校内 100%、全国 90.8%
・順序数を理解している。
【たし算・ひき算】校内 100%、全国 90.8%
・(十何) ＋ (１けた) ＝ (十何) の計算ができる。
・(何十) ＋ (１けた) ＝ (何十何) の計算ができる。
・(１けた) － (１けた) ＝ (１けた) の計算ができる。
【ながさ・かさ】校内 100%、全国 96.2%
・形の異なる容器の水の量を、同じ大きさの容器に移して比較できる。

校内の平均正答率が低かった設問

【ながさ・かさ】校内 63.9%、全国 68.0%
・ものの長さを、任意単位のいくつ分かで比較して、判断することができる。
【ひきざん】校内 63.9%、全国 37.1%
・示された減法の式から、適切な文章問題をつくっている。
【ひきざん】校内 72.2%、全国 69.9%
・減法を適用して、順序数と集合数の文章問題を解いている。

改善プラン

・量と測定の学習では、「そろえてくらべる」や「単位にする量」に着目させ、実測したり、計器を読んだりすることを通して、単位を用いて的確に表現する力を育む。
・式と図と言葉を関連付けて説明する活動を通して、具体的な場面を式で表す力を育む。
・順序数や異種のものを扱って、たし算・ひき算の計算を解き、整数のたし算・ひき算の計算の理解を深める。

つながりのある３年生の単元

・長いものの長さのはかり方、表し方
・重さの単位とはかり方
・たし算とひき算の筆算　・あまりのあるわり算

イ　各教科

【中学年】

＜３年＞

☆区平均を 1.7 ポイント下回った。
(傾向)
○領域別正答率において、「数と計算」「図形」「測定」の正答率が低い傾向にあった。

校内の平均正答率が高かった設問

【かけ算】校内 100%、全国 93.6%
・９の段の乗法九九ができる。

【かけ算】校内 94.3%、全国 93.9%
・４の段の乗法九九ができる。

【１００００までの数】
校内 94.3%、全国 89.6%
・数直線上に示された数を読み取ることができる。

校内の平均正答率が低かった設問

【かけ算】校内 37.1%、全国 38.1%
・８枚の紙でつくることができる三角形の枚数を求めるために乗法の立式をして説明している。

【はこの形】校内 45.7%、全国 33.7%
・直方体を作るときに示された面がいくつ必要かを理解している。

【１００００までの数】
校内 51.4%、全国 62.9%
・数の大小と不等号の意味を理解している。

改善プラン

・かけ算の学習では、高めたかけ算九九の知識・技能を用いて、問題を解決したり説明したりする力を育む。
・比較する活動や記号を使って表現する活動を取り入れて数の大小や比較する方法を身に付けさせる。

つながりのある４年の単元

・小数のかけ算　・わり算のひっ算・億、兆の数

＜４年＞

☆区の平均を 1.3 ポイント下回った。
(傾向)
○領域別正答率において、「数と計算」の正答率が低い傾向にあった。

校内の平均正答率が高かった設問

【大きい数・小数・分数】
校内 94.1%、全国 93.3%
・小数のしくみを理解している。
【わり算】校内 94.1%、全国 91.7%
・２けた÷１けた＝１けた(余りなし)の計算ができる。
【円と球・三角形】校内 94.1%、全国 87.9%
・正三角形を作図することができる。
【時こくと時間】校内 94.1%、全国 89.7%
・ある時刻と時刻の間の時間を求めることができる。

校内の平均正答率が低かった設問

【長さ・重さ】校内 41.2%、全国 34.7%
・２kgを超えないように、３冊目の本を選び、選んだ理由を説明している。
【表とぼうグラフ】校内 47.1%、全国 34.5%
・棒グラフを読み取り、校庭の落とし物の数が音楽室の何倍かを求めることができる。
【かけ算】校内 47.1%、全国 46.2%
・はやとさんの考えに合う計算の工夫(乗法の結合法則)を選んでいる。

改善プラン

・式や図、言葉を用いて解が妥当であるかどうかを考えたり、説明したりする力を育む。
・基準量と比較量の関係に着目して、倍(割合)を正確に求めることができるようにする。
・式を読んだり、説明したりすることを通して、計算規則の理解を深める。

つながりのある５年生の単元

・割合　・単位量あたりの大きさ
・比例　・図形の面積（分数を使う場面）

イ　各教科

【高学年】

＜５年＞

☆区平均を 12.9 ポイント下回った。
（傾向）
○学習指導要領の全ての領域において区平均より正答率が低い傾向があった。

校内の平均正答率が高かった設問

【億と兆・がい数の表し方】
校内 83.9%、全国 91%
・十進位取り記数法について理解している。
【億と兆・がい数の表し方】
校内 77.4%、全国 64.7%
・数の相対的な大きさについて理解している。
【分数】校内 77.4%、全国 84.5%
・数直線上に示された分数の読み取り方を理解している。
【分数】校内 77.4%、全国 89.2%
・仮分数、帯分数の大小比較をしている。
【簡単な場合についての割合】校内 77.4%、
全国 85.5%
・比較量を求める乗法の文章問題を表した図を選ぶことができる。

校内の平均正答率が最も低かった設問

【いろいろな形】校内 32.3%、全国 52.5%
・ひし形の作図ができる。
【折れ線グラフと表】校内 35.5%、全国 56.8%
・二次元表を正しく読み、結論について考察している。
【簡単な場合についての割合】
校内 35.5%、全国 46.4%
・基準量と比較量から求めた割合を比較して、どちらのゴムがよくのびたのかを説明している。
【角の大きさ】校内 32.3%、全国 42.6%
・１組の三角定規を組み合わせてできる角の大きさの求め方を説明している。

改善プラン

・データを表に分類・整理したり、グラフに表して特徴や傾向を分析したりする活動を通して、結論を考察する力を育む。
・問題場面と図、図と式を関連付けて考え説明する。
・何をそろえて比べるかを考えることを通して、場面に応じて差や割合で比べることができるようにする。
・角を測定したり、計算して求めたりして、角の大きさや図形について考える力を育む。

繋がりのある６年の単元

・比
・データの調べ方・拡大図と縮図
・比例

＜６年＞

☆区平均を 4.5 ポイント下回った
（傾向）
○学習指導要領のすべての領域において、区平均を下回った。

校内の平均正答率が高かった設問

【小数の計算】校内 86.7%、全国 84.6%
・小数の乗法の文章問題を表した図の構造をとらえている。
【比例・単位量あたりの大きさ】
校内 96.7%、全国 88.4%
・伴って変わる二つの量の関係を表した比例関係にある表で、一方の値からもう一方の値を求めることができる。
【割合】校内 93.3%、全国 83.8%
・半分が何％であるかを理解している。

校内の平均正答率が最も低かった設問

【比例・単位量あたりの大きさ】
校内 26.7%、区内 34.1%
・速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直すことができる。
【円グラフや帯グラフ・平均】
校内 23.3%、区内 18.9%
・与えられた情報を読み取り、基準量と割合から求めた比較量を比べ、発言が正しい理由を説明している。
【整数のなかま分け】校内 26.7%、区内 27.7%
・最大公約数を使って、問題を解決している。
【立体と体積】校内 23.3%、区内 14.3%
・直方体に入れた土の体積から、ふくろに残っている土の体積の求め方を説明している。

改善プラン

・比例関係を前提に割合に着目し、比べたり、数値を求めたりすることを通して、比較することができるようにする。
・統計的な問題解決を通して、グラフや代表値等をもとに結論にして判断したり、その妥当性について判断的に考察したりする力を育む。
・式を中心とした数学的な表現を用いて、考えの過程を表現したり、読み取って説明したりする力を育む。

繋がりのある中学校の単元

・整数の性質
・空間図形
・比例と反比例
・データの分析と活用